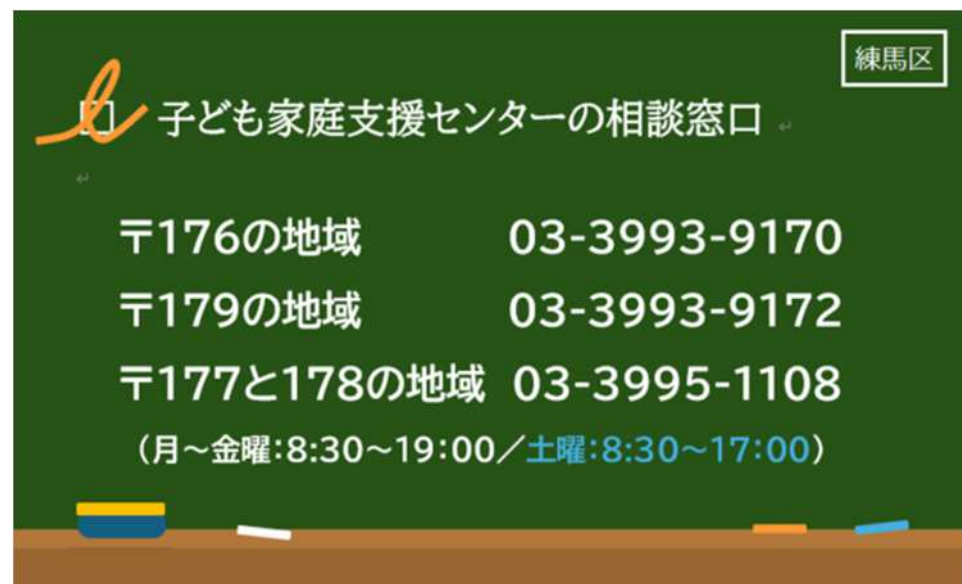


## 子どもの健やかな成長・発達のために

子育てをしていくうちに、どうしたらいいのかわからなくなることがあります。体罰や虐待はよくないと分かっていても、いろいろな状況や理由によっては、体罰や虐待をしてしまいそうになることもあります。

「思わず子どもに体罰や虐待をしてしまいそうになる」

そんな時は、ひとりで抱え込まずに、信頼できる人や**子ども家庭支援センター**にご相談ください。



練馬区

子ども家庭支援センターの相談窓口

〒176の地域	03-3993-9170
〒179の地域	03-3993-9172
〒177と178の地域	03-3995-1108

(月～金曜:8:30～19:00／土曜:8:30～17:00)

## 練馬区子ども家庭支援センター

## 体罰などによる子どもの身体と心への影響

- ✓ 何度もことばで注意したけれど、  
いうことをきかないので、たたいた。
- ✓ いたずらをしたので、長い時間ずっと正座をさせた。
- ✓ 宿題をしなかったので、夕食を食べさせなかった。

これらはすべて「**体罰**」です。

保護者による「しつけ」のためでも、**体罰や暴言で**  
子どもの身体や心を傷つけることは、**法律で禁止**されています。

繰り返される体罰は、

**子どもの心身・脳の発達に深刻な影響が生じる**可能性があります。体罰のほかにも、子どもをどなりつける・暴言で傷つける、けなしたり笑いものにしたりするような言動や、子どもが見ている前で家族や配偶者/パートナーに暴力をふるう・夫婦げんかをすることも、子どもの心を傷つける心理的な虐待になります。

体罰や虐待により、脳へこのような影響があります。

体罰により...

**前頭前野が萎縮**(19.1%)する

感情や思考をコントロール、  
犯罪抑制能力にかかわる部分  
素行障害や非行につながる

暴言により...

・脳の**聴覚野が変形**する

言葉の理解力が低下する  
心因性難聴になりやすい



図1 虐待経験者の脳皮質容積変化  
高解像度MRI 画像（voxel based morphometry：VBM 法）による、小児期に  
さまざまな虐待を受けた若年成 人と健常対照者との脳皮質容積の比較検討。  
(脳の画像提供：福井大学 友田明美 教授)

D V 曝露（家庭内の暴力を目撃する）により...

**視覚野が萎縮**する

目から入る情報を最初にキャッチする力、記憶力が弱くなる  
知能・学習能力が低下する

体罰や虐待による子どもへの影響

体罰や虐待により、特に身体や心が大きく変化する幼少期の発達段階に脳が傷を受けると、子どもの将来や大人になってからの人生にも、さまざまな影響が及ぶことがあります。



身体	心	将来（思春期以降）
発育・発達が遅れる 心の原因により、難聴になる 知能が低下する 学習能力が低下する	情緒が不安定になる 感情を不自然に抑えるようになる 強い攻撃性を持つようになる 健全な人間関係を結ぶことができない 問題行動を起こすようになる 自己肯定感が低くなる	うつ状態になる 自分を傷つきたいと思うようになる 保護者に相談できず、非行・犯罪に巻き込まれる アルコールや、薬物に依存するようになる ●保護者になった時に、自分の子どもを虐待するようになる

